

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育方針 平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として、誠実にして豊かな人間性を身につけ、未来の社会に力強く対応できる人間の形成をめざして、自主的な学習態度、誠実な生活態度、活力に満ちた心身の育成に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育に最善を期する。</p> <p>教育目標(総合学科の目標) 生徒の個性を生かした主体的な学習を通して学ぶことの楽しさや達成感を体験させ学習に対する意欲や態度を育てる。 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深め、心豊かに主体的・創造的に生きていくことのできる資質や能力を育てる。</p> <p>令和元年度学校教育目標 生徒一人ひとりの自己教育力育成と納得のいく進路実現</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>○基礎学力の充実 新学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学びの実現」を意識した授業改善を推進するため、教員の授業力向上が急務である。生徒の授業アンケート、シラバスの充実、授業参観の励行を3つの柱とし、教員一人ひとりが授業力向上に努める。研究授業も奨励し全体として学びの輪を広げる。生徒の家庭学習定着に向け、生徒の意識変革に効果的な講話や講座をさらに充実させる。面談を充実させ家庭との連携強化を図る。</p> <p>○学校運営及び組織力の向上 新高校開校を見据え、総合学科のあるべき姿を見つめ直し、効果的な教育課程の編成が急務である。情報交換をより緊密に行い、共通理解を基調にした組織的な運営を今以上に可能にしていく。会議のコンセンサスを大切に、分掌横断的な学校運営ができるように主任間の連携を推進する。働き方改革については従来の考え方を払しょくし、強力に推進していく。</p> <p>○生徒指導の徹底と地域に愛される生徒の育成 情報モラル教育に最も力を入れ、社会規範を理解したSNSとの上手なつきあい方や携帯電話の使用マナーの改善を推進する。また、生徒自らが考案した学校チャレンジ目標を基調にしつつ、生徒の自主的参画による学校行事を通じて、生徒がより生き生きと生活できる学校づくりを目指す。さらに規範意識を高める道徳教育を推進し、善悪の判断がきちんとできる社会人の育成を図る。</p> <p>○キャリア教育の充実 自ら課題を見つけ、自ら解決する力をつける総合学科の特性をさらに生かして、それぞれが思い描く将来像に近づけるキャリア教育を推進する。また、将来にわたって役立つ自己管理能力を高めるため手帳指導に全学年で取り組む。面談を充実させ、保護者と生徒の意思決定に齟齬が生じないように十分配慮する。書籍との出会いを大切に、人生観の確立の一助とする。</p> <p>○教育相談体制(相談しやすい環境づくり)の充実 いじめ問題の早期発見・早期解決に積極的に取り組むため、基本方針の周知徹底と年間計画を確実に実行する。また、「いじめ」をテーマにしたロングホームルームを実施し、いじめ問題解決を生徒自らが考える機運を醸成する。生徒の心の変化を察知するためによりきめ細やかな相談活動を展開していくため、専門家との連携を強化し、その力を借りながら悩みを抱える生徒に寄り添う相談活動を実現する。</p> <p>○安心安全で快適な学校生活の推進 ともしれば薄れがちな防災に対する意識を高めるために、実際の災害を想定した避難訓練や講話を推進し、将来的に役立つ危険予測行動が取れる生徒の育成を目指す。環境教育にも力を入れ、委員会活動を基調にして校内外を問わず美化に関する意識をさらに強める。気象の急変による交通障害にも臨機に対応できる力や予測して早めの行動が取れる生徒の育成を図る。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>1 3年間を見通した組織的なキャリア教育の推進 2 学力の向上、学び続ける態度の育成に向けた取組の充実 3 自他の尊重と主体的に行動する力を育む諸活動の推進 4 生徒一人ひとりを大切にした教育相談活動の充実 5 魅力ある光丘高づくりと積極的な情報発信</p> <p>生徒チャレンジ目標 「勇煌舞新」～こころ踊る丘高に向かって～</p>
--

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	○緊密な情報交換による、円滑な学校運営の推進	・分掌横断的な取組が充実するよう、情報交換を積極的に行うことで、主任間の連携をより強化する。 ・生徒情報交換会を定期的に行い、情報共有する。	4: 情報交換が行われ、十分な効果を上げた。 3: 情報交換は行ったが、効果は上がらなかった。 2: 情報交換も不十分で、効果も不十分だった。 1: 情報交換が全く行われなかった。	4	各分掌間で情報共有を積極的に行い、お互いの動きを理解することができた。生徒情報交換会を定例化して行った。教育相談室を中心に学年、管理職と連携し、組織的な対応ができた。	・概ね計画通りに実行してきたと評価する。PTAの参加率についてはもう少し工夫を必要とする。 ・PTA総会の参加者の増加は非常に難しい問題であるが、どうにか増加するよう一緒に考えたい。 ・学校のHPを拝見したところ、最新情報も掲載されており、スマホ用にもデザインされており、充実していると感じた。 ・PTA活動については、見づらく、今後HPで紹介するなど検討されているか。 ・学校行事が活性化されており、情報発信もしっかり行われている。	A
	○防災体制の充実(保健体育部)	・防災訓練に関するアンケート結果を踏まえて、訓練内容をより充実させる。 ・生徒と全ての教職員が、目的と趣旨を理解し、防災に対する意識向上を図るとともに、より現実に即した訓練を実施しながら、学校全体の防災体制を整える。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	4	各学期に一度の防災避難訓練は、事前指導を徹底し、高い意識をもって取り組むことができた。また、緊急地震速報を利用した訓練では、教職員、生徒の行動や、防災に対する意識の変化が感じられた。		
	○公費会計及び私費会計の効率的かつ適正な執行(事務室)	・常に納税者及び保護者の視点に立ち、コスト意識の維持・向上に努める。 ・経費の支出については、事務職員全員が関与し、チェック機能を強化することにより適正を確保する。 ・事業によっては、事前に、教頭、担当教員等と協議を行い、支出の要否、内容等について慎重に検討を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	4	今年度予算も、やはり厳しい状況であったが、予算の適正な管理及び効率的な執行により、学校運営に支障を生じることがないように物品の購入、修繕等をすることができた。		
	○情報発信の充実化(情報図書部)	・ホームページの内容を充実させ、情報発信に努める。 ・光丘だよりや学校行事などを、HPや地域、中学校への配布物を活用して、情報発信に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	光丘だより・行事予定を発刊・改定の都度、PDFで配信した。総合学科の特色である行事や部活動の受賞記録について随時配信し、PRにつなげた。		
	○PTA活動の活性・充実(教務部)	PTA総会の内容を充実させ、参加者の増加をめざす。また、保護者の意見を取り入れ連携を深める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	PTA後援会や総会では、評議員の意見を取り入れて実施した。広報活動もあってPTA講演会の参加者数は増加したが、総会の参加者数の増加にまでは至らなかった。文化祭や体育大会等の学校行事にPTA評議員の方が積極的に参加され、行事の活性化につながった。		
学習指導	○科目選択指導の充実(教務部)	きめ細かな科目選択指導の実施と、進路意識を高める科目選択群の作成に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	担当と学年団が協力し、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導が図れた。今後は各教科と連携し、スムーズな対応が必要である。科目選択の時期に、進路を再確認したり、必要な科目を調べたりして、進路意識を高めることができた。科目選択では、すべての希望を叶えるには、物理的に難しいところがある。	・達成度が少し低いような気がするが、学校としての努力は十分に行われているように思う。	B
	○教科指導力向上のための機会の設定(教務部)	授業アンケートを実施し、教材研究や指導方法を振り返る機会を設定する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	4	アンケートの結果から授業を振り返ったり、改善を考えたりすることができた。年2回の授業評価により、指導方法を考える良い機会となった。自由記述により、授業の改善点を明確に知ることができた。		
	○公開授業や研究授業(フォローアップ研修や中堅教諭等資質向上研修)を参観し、互いの授業力を高める。	4: 100%の教員が参加した。 3: 90%の教員が参加した。 2: 80%の教員が参加した。 1: 70%の教員が参加した。	3	授業者、参観者ともに日頃の授業を振り返り、改善点を協議する機会となった。他教科の授業を参観したり、アドバイスをもらったりする機会を持つことで、自らの授業改善に新しい視点を加えるきっかけとなった。			
	○学力の向上と学習習慣の確立(1年次)	基本的な学習内容の定着をめざした学習指導をする。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	授業に取り組む姿勢は概ね良好である。家庭学習の時間が少ない。今後は、折々に将来の志望を意識させ、目標を明確にし、自主的、自発的に学習するように指導していく。		
	○学力の向上と学習習慣の確立(2年次)	授業の大切さを意識させると同時に、家庭学習の習慣を身に付けさせ、自主的な学習態度の育成を図る。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	2	教室移動は、ほぼ遅れることはない。授業開始時に準備が十分できていない点もあり、意識の向上を図る必要がある。家庭学習については国語、数学、英語を行っている。互いに問題を出し合うなど意識の向上も見られるが、不十分な面もあり指導を続ける。		
○学力の向上と学習習慣の確立(3年次)	毎日の授業が大切であると意識させ、自主的・意欲的に卒業研究に取り組ませる。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	ほとんどの生徒が自主的・意欲的に学習や卒業研究に取り組み、資格取得等に成果を上げた。2学期以降、気のゆるみと共に成績が下降した生徒も見受けられ、毎日の授業の大切さを認識させることに課題がある。			

生徒指導	○基本的な生活習慣の確立(生徒部)	・頭髪・服装指導は、事前指導の徹底に努める。 ・まずは、教員からの挨拶の励行に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	月1回の服装・頭髪指導、登下校時の立哨指導を行った。校外での服装の乱れが見受けられるので、生徒の意識の向上を図る必要がある。生徒会を中心に浅江地域や小中学校と連携して「あいさつプロジェクト」を実施した。	・十分に効果は発揮されていたと評価する。 ・挨拶はみんな良くしてくれていると思う。 ・社会人(大人)として必要なことだと思う。是非続けて向上させてほしい。 ・生徒指導には学校の苦勞がうかがえる。 ・そもそも家庭での指導が一般的だと思うので、評価欄には家庭への連絡、連携、周知などについても記載してほしい。	B
	○交通安全指導の徹底(生徒部)	・自転車利用規則や交通マナーの遵守を徹底する。 ・通学路の安全確保や事故の未然防止に努める。(室積方面は行きは海側、帰りは山側)	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	大きな交通事故等の発生はなかった。歩きスマホ等の危険行為についても定期的に呼びかけを行い意識の向上を図った。自転車点検を定期的実施し、危険な状況の自転車に修理・改善の指導を行った。		
	○携帯電話利用規則の遵守とマナーの向上(生徒部)	・機をとらえた講話を随時行う。 ・反省機会には十分に意識付けさせ、違反を防ぐ。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	違反件数は昨年度と同程度である。指導の際には、社会的なマナーを意識付けができるように行った。引き続き指導を行うとともに、携帯電話についての校則の改定を検討する。		
	○基本的なマナーの修得(保体部)	・学校生活のあらゆる場面で気持ちのよい挨拶ができるよう指導する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	学校生活全般での挨拶は良くなりつつあるが、教員に対しての言葉の使いかたや接し方には課題がある。引き続き、全教員が生徒のマナー改善に意識をもち、指導していく。		
	○基本的な生活習慣の確立(1年次)	「学校生活上の留意点」に基づき、きめ細かな生活指導をする。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	情報共有を心がけ、学年全体で生活指導を行った。服装等の乱れを指摘されており、規律を守るよう指導に努めたい。人間関係のトラブルが何度か起こったが、担任を中心に早期に対応した。相手の立場を考えた言動をができるよう指導に努めたい。		
	○基本的な生活習慣の確立(2年次)	「学校生活上の留意点」に基づき、きめ細かな生活指導を行い、手帳指導を通して自己管理能力を高めさせる。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	2	正副担任会等を通し情報共有を図った。SNS等で個別に追指導が必要なことが起こった。再度SNSトラブルについての講話を行うなど、指導を継続していきたい。手帳指導を通して、学習時間等把握してきたが、記載が正確でないものもあり、引き続き指導していく。		
	○社会人としての教養やマナーの習得(3年次)	時間を守らせ、挨拶・集合・服装指導などを継続的にを行い、社会人としてのマナーを向上させる。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	ほとんどの生徒は、時間を守り、自発的な挨拶ができた。集合状況もよく、日々の声かけなどによって指導の充実につながっていると思われる。しかし、認識が甘い生徒もあり、身だしなみ等で何度も指導を受ける生徒もいた。		
進路指導	○「納得いく進路実現」をめざして、計画的に努力する生徒の育成(進路部)	・家庭学習の充実と生徒の自発的学習態度の育成を図るために、手帳指導を充実させるとともに、指導に関する教員間の情報共有と振り返りを実践する。 ・地域人材や卒業生を講師に招いて進路意識の明確な意識化を図る。 ・社会人として必要な基礎学力を身に付けさせるために、学習時間調査・スマホ時間調査を活用しながら、学力に対する意識の向上を図る。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	地域人材の招へいについては、進路講演会やキャリアアップ講演会で実現を果たした。手帳指導では、各年次で指導方針に大きな違いが見られた。模試への参加者が全学年とも減少傾向にある。生徒の意識向上に向けて学年と提携しながら、進路部として働きかけを行っていく必要がある。	・きめ細かな指導が出来ており評価している。 ・達成度も高く、子どもたちの将来を見据えた指導ができていっているように思う。	A
	○地域に信頼される光丘生になることの意識の徹底(進路部)	・ファシリテート能力・傾聴力を育成するために、校外・異世代との交流機会を多く企画する。 ・学年や他の分掌と連携しながら、挨拶・身だしなみやマナーなどに関する指導を充実させる。 ・地域社会と連携した教育活動を通して、地域に信頼されると同時に、地域の活性化にも貢献していく。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	職場体験やガイダンスなどを通して、生徒の進路意識を高めることができた。地域と連携した活動やボランティア活動に参加する機会を設けることで、生徒に地域社会の一員であるとの自覚や自己有用感をもたせることができた。参加数も昨年並みを維持している。		
	○コミュニケーション能力の向上(1年次)	「産業社会と人間」や各行事の中で、コミュニケーション能力が高まるようにする。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	職業別ガイダンス、職場体験などの機会を利用し、将来の目標設定を促した。また、学んだことを文章で表現したり、自分の考えや体験を発表したりする機会をもつことで、プレゼンテーション力を高めさせるとともに、良い聴き手となる指導にも努めた。		
	○キャリア教育の推進(2年次)	キャリアアップ学習を通して、社会で必要とされる技術や能力の向上を図る。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	4	講師を招へいし、プレゼンテーションの学習を行った。大勢の前での発表と発表会の運営の経験を積ませることができた。複数の進路講演会は、自分の進路について再考する機会となった。		
	○一人ひとりの資質を生かした進路実現(3年次)	進路に応じて個人面談等、きめ細かな指導を適切に行い、資格取得を促すことで、生徒の希望進路の実現をめざす。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	4	学年と連携し、9割を超える生徒が年内に希望進路を実現した。担任を中心とした個人面談の後、情報交換を行い、面接指導、小論文指導などの個別指導をきめ細かに行った。進路希望変更には、その都度十分な状況把握と適切な指導を行った。		
	○朝の読書の定着(情報図書部)	・言語活動の活性化・クラス文庫の充実を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	試験週間を除いて毎朝取り組むことができた。		
情報図書	○図書室利用の促進(情報図書部)	・親しみやすい図書室をめざし、レイアウトなどを工夫し、本の整備に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	展示の工夫はしたが、利用者はあまり増えなかった。今後は、「ライブがらり」活動を取り入れて、利用の促進に努める。	・概ね評価する。 ・図書へのふれあい促進に向けた取組は評価できる。	B
	○情報セキュリティ・モラルの向上、情報発信の充実(情報図書部)	・情報セキュリティの環境整備、情報モラルの向上、情報発信の充実を努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	本年度も、入学説明会において早期に情報モラルについての講習会を行った。本校の公式ホームページについては、定期的な更新だけでなく、内容の変更に合わせ更新した。		
	○共通理解を基調とした学校全体で支援する体制づくりの推進(教相室)	・情報交換会の定期開催や職員会議後の情報交換等を通じ、全職員で生徒を見守る体制を整える。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	4	定期開催の情報交換会や職員会議後の情報交換を行い教員間で生徒の情報を共有し、学校全体で生徒を見守る組織的な体制を整え、教育相談活動を行った。		
教育相談・いじめ対策	○気になる生徒の早期発見、早期対応の推進(教相室)	・学期ごとに実施する個人面談や学校生活アンケート、年2回実施するFitの結果を活用し、生徒理解を深めるとともに生徒間の様子を注意深く観察するよう努める。 ・教育相談室を開放し、生徒の居場所をつくる。 ・教育相談だよりを毎月発行し、生徒への啓蒙に努める。 ・メールによる相談方法の周知に努める。	4: 計画通りに実施し、十分な取組ができた。 3: 計画通りに実施し、ほぼ取り組むことができた。 2: 計画通りに実施はしたが、取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	面談やアンケートの結果等を活用しながら生徒の状態の把握に努めるとともに、教員が積極的に声かけを行う機会を増やすなど困り感をもつ生徒の早期発見、早期対応を行った。しかし、早期に発見できた事案に対して迅速な対応が行われなかったケースもあった。	・各種の取組を実施している。大いに評価できる。先生方の負担も考え必要と思われる取組を続けてほしい。 ・ナイーブでデリケートな問題だと思う。先生方の苦勞に敬意を表する。犠牲になる生徒が出ないようにしてほしい。 ・生徒へのきめ細かな対応が評価でき、教員や職員の努力も素晴らしい。	B
	○個別対応が必要な生徒への組織的な対応の推進(教相室)	・SCや専門機関との連携に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	4	個別対応が必要な生徒については、SCと計画的に面談を実施することで生徒の支援にあたった。本人や保護者の希望がない場合でもカウンセリングが必要なケースでは積極的に働きかけた。		

策	○いじめの予防(教相室)	・教職員の資質能力の向上に向け、いじめ防止に向けた校内研修を実施する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	いじめの予防については、いじめの定義や法律への正しい理解を含めて、教員の資質向上に向け、校長とSCによる研修を実施した。		
	○いじめの早期発見と早期対応(教相室)	・個人面談や学期ごとのいじめアンケートを通して、状況の把握に努める。 ・情報交換会の定期開催や職員会議後の情報交換等を通じ、情報連携、行動連携に努める。	4: 計画通りに実施し、十分な取組ができた。 3: 計画通りに実施し、ほぼ取り組むことができた。 2: 計画通りに実施はしたが、取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	面談週間の面談やいじめのアンケートから気になる生徒については、担任がさらに個別に面談を行い詳細を聞き取るのと同時に、情報交換、ケース会議等の組織的な対応のもと、いじめの早期発見、早期対応を行った。		
環境教育	○環境教育の推進(保体部)	・ゴミの分別、持ち帰り(長期休業中を含む)を徹底指導する。 ・環境美化委員会の活動を継続し、ゴミの分別に対する全校の意識付けに努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	1学期から2学期にかけてはゴミの分別や持ち帰りに課題があったが、指導注意を行った2学期後半ぐらからは、大きく改善された。この環境美化活動が生徒による自主的なものとなり、全生徒の環境美化意識が上がるように努めた。	・評価できる。 ・一人の人(大人)として大切なことなので、指導を引き続きお願いする。 ・学校内、校舎内も清潔で気持ちが良い。	B
特別活動	○生徒会活動の充実(生徒部)	・生徒会活動についてHP等で情報発信を行い、執行部の活動の周知を図る。 ・毎週、昇降口で定期的に挨拶運動を行う。 ・各行事では、より有意義な活動になるように、綿密な計画を立てて実施する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	4	光丘七色プロジェクトの一部として公式SNSを開発し情報発信を計画している。年間を通して、挨拶運動は積極的に取り組むことができた。生徒からの意見も取り入れながら各行事を行った。特にクラスマッチは新種目を取り入れるなど、全生徒が参加できるよう努めた。	・評価できる。 ・生徒の自主性を生かす取組ができています。	A
	○環境美化委員会、体育委員会の活動の活性化(保体部)	・リーダーシップのとれる生徒を育成する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった。 1: 取組ができなかった。	3	環境美化委員長がゴミの分別や持ち帰りについて生徒総会で提案を行うなど、委員は意識高く活動を行っているが、学校全体に美化意識を浸透させるには課題が残る。来年度、二学年で実施する体育大会に向け実行委員会を設けるなど、体育行事の充実を図る。	・評価できる。 ・生徒の自主性を生かす取組ができています。	B
業務改善	施設設備	・定期的な点検、見回り、安全点検、職員からの随時の報告等により、施設・設備の現状の的確な把握に努める。 ・施設・設備の修繕、改修に当たっては、最小の費用で最大の効果が得られるよう、予算の効率的な執行に努める。 ・困難な案件、多額の予算を要する案件については、早期に教育庁と協議を行い、対応を進める。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	4	小規模ではあるが、体育館、音楽室、プール、LL準備室等の修繕工事及び陶芸用電気窯の交換を行い生徒の学習環境を保全した。モルタルが剥離、落下する可能性がある軒及び庇に当座の処置を行い、生徒及び職員の安全を確保した。	・予算の少ない中、計画的に実行。評価できる。 ・建物も古くなるので日々のチェックが大切である。 ・安全・安心に対する配慮が感じられる。	A
	業務改善	・事前に資料を配付し、議事の円滑な進行に努める。 ・一読すれば理解できるよう、資料の作成を工夫し、説明する時間を短縮する。 ・会議時間確保のための工夫をする。	4 勤務時間を超える会議は全くなかった。 3 勤務時間を超える会議が年間にほとんどなかった。 2 勤務時間を超える会議が半分程度あった。 1 ほとんどの会議が勤務時間を超えた。	3	一読すれば理解できるよう会議資料の作成や運営を工夫することで会議の時間短縮をすることができた。事前に資料を配付し、資料の説明する時間を短縮するよう努めることで円滑に会議を進めることができた。	・概ね計画通り。評価できる。 ・先生方の健康が何より一番であり、自分が元気でないと他人の心配はできないので、時代に適した働き方をお願いする。 ・改善に向けた取組は感じることができる。	B
	働き方改革	・ノー残業デーを設定し、定時退校を呼びかける。 ・業務の効率化を図り、平成28年度と比べて、残業時間を30%削減する。	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	ノー残業デー(毎月21日)を設定し、なるべく早い退校を呼びかけた。残業時間の縮小に向けて、業務時間の管理と意識改革に努めた。その結果、12月～1月には残業時間を削減した。30%削減目標も達成した。		
	健康管理	・職員の健康の維持・増進に資する講習会、事業等の案内、情報の提供、研修等の実施 ・年休取得の奨励 ・日常の挨拶、声かけ等	4 十分にできた。 3 概ねできた。 2 少しできた。 1 あまりできなかった。	3	具体的方策に掲げたことは実践しているが、もう少し積極的にするべきであると思われる。現時点で長期病休者や顕著な体調不良の職員がいないことは幸いであり、今後も地道に取組を継続する。	・評価できる。 ・教職員の健康があってこそ学校の運営であり、取組も評価できる。	B
	○諸会議時間の短縮						

5 学校評価総括(取組の成果と課題)	<p>【学校運営・業務改善】 校内組織の横断的な連携も進み、生徒の情報共有もはっきりできるようになり、悩みをもった生徒への対応に組織的に取り組むことができた。PTAとの連携も進み、行事等の活性化につながった。諸会議の時間短縮や残業時間の削減など業務改善も進み、当初の目標を達成することができた。引き続き業務改善、働き方改革に取り組んでいきたい。</p> <p>【学習指導】 授業公開や授業評価を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業となるよう授業改善に努めた。授業参観をする機会をもっと増やすことが課題である。週末課題を出したり、漢字テスト、単語テストをしたりするなど学力の向上に努めた。今後も自主的・自発的な学習時間の確保に努めていかなければならない。</p> <p>【生徒指導・特別活動】 学校のあらゆる場面で気持ちのよい挨拶ができるよう取り組んだ。小・中・高で連携してあいさつ運動をすることで、地域からも好評であった。身だしなみ等まだ意識の低い生徒がみられる。引き続き朝の校門指導等に取り組んでいきたい。SNSのトラブルが多い。今後は情報モラル教育が急務である。</p> <p>【進路指導】 地域人材や卒業生などを講師として招いたり、職場体験やガイダンスをしたりして、生徒の進路意識を高揚する機会を効果的に設定することができた。進学に向けての個別指導をきめ細かくすることで、多くの生徒が進路実現を果たすことができた。組織的に手帳指導を行うことで家庭学習の充実と学習時間を増やす意識を育成する必要がある。</p> <p>【環境教育・防災教育】 実際の災害を想定したり、事前予告なしの避難訓練を行ったこと、危険予測行動がとれるよう意識の向上を図った。ゴミの分別については、指導を繰り返すことで、大きく改善された。今後は更なるゴミの分別と、持ち帰り運動を行うことで生徒の意識を向上させたい。</p> <p>【教育相談】 各学年と情報共有をするとともに、SCと連携することで、きめ細かな相談活動を展開することができた。いじめのアンケートを活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めた。いじめの定義を再確認したり、人権教育研修を実施したりすることで教職員の意識を高めた。悩みを抱える生徒は増えており、教職員のアンテナの精度を更に高める必要がある。</p> <p>【情報図書】 朝の読書活動に取り組むことで、本に親しむことができた。図書室の利用者の増加あまりみられなかった。今後は「ライブラリ」活動も取り入れ、利用促進に努める。情報発信についてはHPの更なる充実を図りたい。今後、情報モラルに関する問題行動が増加すると予想されるため、未然防止に向けてスマホ等の使い方指導に取り組む必要がある。</p>
6 次年度への改善策	<p>○学校運営及び組織の向上 生徒や先生が少なくなる環境で、いかに今までと同じ教育が出来るかが重要となってくる。光高との統合に向けて、光丘七色プロジェクトが、地域の中にある学校としてこれまでの39年間の歩みを再認識する取組となるようにする。業務改善や働き方改革に引き続き取り組む。</p> <p>○基礎学力の向上 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進するために、教員の授業力の向上に努める必要がある。授業アンケートを活用したり、シラバスを充実させたり、授業参観を励行したり、外部の研修会等を活用したりして、一人ひとりの授業力向上に努める。生徒の家庭学習の定着に向け、課題を出したり、漢字や単語テストをしたりするなど工夫をするとともに、組織的に手帳を使った指導を行うことで生徒の意識を向上させる。</p> <p>○生徒指導の徹底と地域に愛される生徒の育成 SNS等情報モラル教育に更に力を入れ、スマホ等情報機器の上手な使い方ができるよう、使用のマナーの改善を図る。道徳教育を推進し、規範意識を高めるようにする。光丘七色プロジェクトの活動を通して、学校行事が活性化するとともに、あいさつ運動等で地域貢献できるよう工夫していく。</p> <p>○キャリア教育の推進 将来の職業選択を視野に入れた進路への自覚を深めるために、科目選択に対する指導助言や職業観・労働観を育成する機会を設けるなど、ガイダンス機能を強化していくことが必要である。コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、ボランティア活動に参加することで、地域の一員であるとの意識をもたせ、自己肯定感を高めさせる。</p> <p>○教育相談体制の充実 いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて、基本方針を周知し年間計画を確実に実施する。生徒の心の変化をいち早く察知するため、面談週間やアンケートを活用しながら、きめ細かな相談活動を進めていく。また、スクールカウンセラーや外部の専門機関と連携し、悩みを抱える生徒に寄り添う相談活動を実現する。</p> <p>○安心安全な学校生活の推進 実際の災害を想定した避難訓練や講話を実施し、危険予測ができる生徒の育成をめざす。日頃から集合の際に避難するという意識をもたせるよう指導を行う。環境教育でも、ゴミの分別や持ち帰り等を行い、環境美化に努める。</p>